

# 東京福祉会だより

第61号 平成23年7月(通刊84号) 発行

去る三月一日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになられた方々には深く哀悼の意を表しますとともに、被災者の方々には心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

社会福祉法人 東京福祉会



# 郷

こびね

「響」とは「郷」の「音」と書きます。私ども東京福祉会では、この温かなものを大切に「心に響く葬儀」を目指しております。

「特別な日」

弁護士 土肥 尚子先生

「東日本大震災」被災地へ

職員を緊急派遣

葬儀の事前相談・葬儀予約契約  
について／平成22年度決算報告

お客様からのご意見・ご要望  
(アンケート)

喪失体験から立ち直るまで

大正8年創立



社会福祉法人 **東京福祉会**

道灌山会館 江古田斎場 ホール多摩



弁護士 土肥 尚子

# 特別な日 特別な日

誰にも特別な日と言える日がある。毎日毎日続く日常生活の中で、昨日とは違う日が誰にでもある。

いい日もあれば、悪い日も、楽しい日もあれば、悲しい日もある。

私にとっても、それは、ある。

例えば、司法試験の受験生だった何年かは、合格発表の日が、特別な日だった。その頃の司法試験は、五月の第二週の選択式の試験から始まり、七月、梅雨明けの暑い最中の論文試験、さらに最後の面接試験と三段階だった。当時は、最後の面接試験で落ちる人はほとんどいなかった。論文試験が最大の難関と言われていて、私も何度もそこで落ちた。発表は秋だったから、落ちた年は、秋の夕暮れを眺めながら、来年の今頃はどんな気持ちでこの夕陽を見ているのだろう、いつか受かる日がくるのだろうか、と不安をかみしめたものだった。

最終合格の発表の日は、弁護士という今の私の仕事の出発点になった日であり、何年もかかってやっとたどり着いた日でもあった。その頃の発表は法務省の中庭に合格者の氏名が張り出されていた。

地下鉄霞ヶ関駅から地上への階段を登りながら、緊張して足が鉛のように重かった。その感触を今も思い出すことができる。掲示板をドキドキしながら見て、

名前を見つけた時の驚き、かみしめて帰りながら、もう二度振り返って確かめたこと、つれいといつよりも、もっと胸に迫るものがあり、やっと社会への扉が開いたと安心したような気持ちだった。その時着ていた服まで、今も覚えている。

結婚式、出産、子どもの運動会など私的なこと、あるいは仕事の中でも大変だった証人尋問、一生懸命書面を書きあげた日、勝つか負けるかぎりぎりの事件の判決の日など、仕事の中でもいくつか記憶に残る特別な日がある。そんな特別な日、誰にもあり、それは、その人の人の人生の軌跡となっている。

二〇一一年三月二日は、多くの人にとって、特別な日になってしまった。多くの人にとり、それぞれの人生の中で、それまでの人生を変える、いや変えざるを得ない日になった。

地震のその時、私は、事務所で二人だった。ビルの八階で結構揺れた。「トイレは、狭い割に柱が多いからいい」という話を思い出して、トイレ付近に行った。そのすぐ前にあったニューシールドの地震を思い出し、ビルが倒壊したらどうしよう、などと考えていた。

応接室の博多人形が床に落ちて割れた。コピーの機械が50センチもずれた。お茶などを入れているボックスが倒れた。

どうしたらいいか分からず「すぐに外に出るのはかえって危険。出口は確保しよう」という話も思い出して、ドアを開けてみたら、開いたので安心した。

揺れが収まって、インターネットで情報を集めた。携帯電話はつながりにくくなっていて、携帯メールもなかなか届かなかったけど、パソコンには、メールは届いたし、インターネットにも接続していた。いつも通勤に使っている地下鉄が止まっていた。そのうち復旧するだろう、そうしたら帰ろうと思ったのだが、いつまで経っても復旧しない、これは大変…。路上に人が溢れており、外は騒々しかった。

夜八時頃になり、結局、歩いて帰った。何とか夫と合流し、一緒に歩いた。スマートフォンが頼りだった。新宿は、歩いて帰る人でごった返していた。都心を離れるにつれ、人は少なくなったが、それでも人通りが途切れず、街灯もついていたので、心細くはなかった。途中の公衆電話でやっと自宅に電話が通じ、家族の無事が確認できた。

二時間半かかって、自宅の最寄り駅まで帰ってきたら、電車が復旧していた。なんだか拍子抜けしたのを覚えている。

しかし、日頃、携帯電話に頼りきっているのに、携帯電話が通じない、メール

もなかなか届かない。そのうち充電が切れてしまう…。自分の日常は本当に頼りないものの上に乗っかってきたのだと思いが知らされた。

土日は、テレビにくぎづけだった。被災の実態、津波の爪痕は衝撃的だった。この世のものとは思えない、としか言いようがない。その後が続いた原発の危機的状況…。一体、これから日本は、私たちの生活は、どうなってしまうのだろうか。打ち消しようが無い大きな不安が襲ってきた。

近くのスーパーに買い物に行くと、棚はからっぽだった…。目の前で起こっているのに、何か信じられなかった。

次の週からは、いろいろな行事、会議が次々と中止になり、テレビをつければ原発が水素爆発した、汚染水が漏れていると、さらに大変なことが次々と起こっている。

また、被災の様子が、次々と明らかにになった。役場の屋上に逃げて、それでも津波が襲い、屋上の上立っている鉄塔で何とか難を逃れたという写真、小学校の屋上まで届いた津波、また避難所や病院などの現状、明らかになる事実は、全て過酷で、信じられないことばかりだった。

三月一〇日まで、日本は自由で、便利で、物が溢れていたのに、そんな全てが

崩れ去った。この先一体どんな将来が待ち受けているのか…。

戦後と似た光景が広がっている。戦争は人災であり、地震や津波は天災である。いつしよくたにしてはいけないところはある。しかし、これまで当然のこととして信じていた社会状況が、一瞬にして崩れ、生活の仕方を変えざるを得なくなつた。そして、復興が盛んに語られる状況、また、経済的にも大きな困難が立ちほだかつている状況が、戦後とよく似た風景を作り出している。

3・11は日本全体の特別な日となった。一人一人によって、その具体的意味内容は、違っているだろう。しかし、二〇一二年三月一日の前と後は、全てが決定的に違っている。私たち誰もが、違った思考を、違った生き方をしなければならぬのだ。生きていく意味、人や社会とのかわりを、大きく突きつけられた日となったと思う。

そして今、私たちの中に自分のできることをしたいという思いが、大きく、深く、広がっている。被災地の人に何か協力したいという思い、自分のやれることをやりたいという思いだ。

それは、個人主義の方向へずっと傾き続け来た日本社会が、久しく忘れていた連帯の心、人と人とのつながりを大事にする心の復活ではないのだろうか。

昨年、NHKの番組で有名になった「無縁社会」。家族がバラバラ、親子であつても、それぞれの居所を知らないし、知ろうともしないという現実。それぞれのケースにはそれぞれの事情があり、一概に善悪では割り切れないことではあろう。しかし、私たちの社会が、何か寂しい、荒涼としたものになっていきつつあることを感じた人は多かつたと思う。便利で快適な、しかし無機質な冷たい社会。

そんな「無縁社会」ではなく、お互いを思いやる心を持ち、大きく連帯し合う社会へ、少しずつ動いていけるのではないだろうか？人間関係の重要性に気付いて、その方向へ、社会が動きつつあるように思う。

何かをしなければいけない。何か手助けをしたい。復興へ向けて、自らも動き出したい。そんな気持ちを、今、誰もが持っている。

具体的に何をすればいいかは、まだよく分からない。でも、自分の頭で考えて、少しずつ動き出せばいいのではないだろうか。誤りをしないのは、何もしい人だけだと言う。少しずつでも、一歩ずつでも、私も私のできることを、また信じて、ことをやっていければと思う。

その先に、いつか3・11を超えたと思える特別な日、私たち一人ひとりに、また日本社会全体にも、来ると信じて。

## 土肥 尚子 (どひ しょうこ)

昭和62年4月 弁護士登録

東京弁護士会所属

平成21年度、22年度、東京弁護士会高齢者・

障害者の権利に関する特別委員会委員長

著書「障害児を叩くな」 明石書房 共著

「成年後見の法律相談」 学陽書房 共著

「成年後見法制の展望」 日本評論社 共著

# 「東日本大震災」被災地へ 職員を緊急派遣



去る3月11日発生した【東日本大震災】によるご遺体搬送のため、社団法人全国霊柩自動車協会(以下「全霊協」という。)からの緊急要請により東京福祉会は遺体搬送車と職員2名を派遣いたしました。以下は、現地での状況と活動報告です。

**3月24日午前9時40分** 非常食・ガソリン・寝袋等の非常用物資を搭載し指定地の仙台市に向かい江古田斎場を出発しました。「緊急車両」の表示のため高速道路は無料で、ほぼ予定通り15時30分に集合場所である地元葬儀社「清月記」宮城野斎場に到着しました。

直ちに、各地から派遣された20数人の職員と共に全霊協の現地事務所からの説明を受けました。業務は明日からとのこと、宿舎として用意された同斎場の一室に持参した物資と共に入りましたが、この部屋は20人ほどが同居で、ザコ寝でした。

昼間見た現地の惨憺たる状況を思うと、複雑な思いが交差し、なかなか寝付けませんでした。

**3月25日** いよいよ搬送業務開始です。全霊協の現地事務所からの指示で8時「石巻福地体育センター」ご遺体安置所に向かいました。途中、北上川沿いの地割れした道路を走行中、川岸に集まった瓦礫に驚きながら、10時に現地に到着しました。

ご遺族と共に体育センターの中に入りますとご遺体の入ったお棺が多数ならんでいるのを目の当たりにし、ご遺体とのご対面については馴れているはずの私共でしたが、その光景にいささか

驚きました。10時50分、体育センター安置所を出発し搬送先である仙台市内「清月記」太白斎場に、13時に到着しました。

太白斎場3階大式場には既に多数のお棺が安置され、それぞれに花が供えられてありました。

**3月26日** 昨夜の雨と雪で車は汚れ、向かった先の「旧石巻青果花き地方卸市場」ご遺体安置所も泥だらけで、昨日の安置所より二倍も三倍も大きな建物の広いスペースにお棺にも納められず納体袋のまま多数のご遺体が並べられており、それを目にしたときは言葉もなく、ただ立ち尽くすだけでした。

納棺する際、泥のついたお棺をご遺族にお詫びすると苦情を言われることもなく、ひたすらむしろ感謝されるお気持ちを感じる思いでした。

**3月27日** 今日と昨日と同様「旧石巻青果花き地方卸市場」の安置所から太白斎場への搬送でした。同市場の敷地内にテントが張られ、この中にまだ身元不明のご遺体の写真が掲示されており、早朝から多数の関係者が探しにこられ、見つからなかったのか、がっかりして帰えられる方もおり、なんとも気の毒でした。

このほかにも多数のテントがあり、新たに収容されたご遺体が自衛隊の車

で搬送されてくると検死する処などもあり、そこにも納棺されたお棺が多数安置されておりました。

活動中、道筋からも多くの家や車などが壊れ瓦礫となっているのが見え、この中にも未だ収容されないご遺体が数多くあるのかと思い、一日も早い収容を願わずにはいられませんでした。

**3月28日** 仙台空港近くの「旧仙台空港ボーリング場」安置所から太白斎場への搬送が終わり宿舎に戻ると、今回の業務終了が告げられました。

亡くなられた方々のご冥福と被災地の一日も早い復興を祈りつつ13時仙台「清月記」宮城野斎場を出発し、17時無事江古田斎場に帰着しました。

江古田斎場 斎場長 平野 博  
課長補佐 福島 敬修



安置されたご遺体(石巻市)

その後、全霊協からの要請により、火葬のため被災地から夢の島(東京都江東区)に移送されたご遺体の都立瑞江火葬場への搬送業務を支援いたしました。(4月28日~5月1日、搬送車 4台、職員 8名)

# 葬儀の事前相談、 葬儀予約契約について

私ども東京福祉会では随時、葬儀の事前相談を承っております。  
ご相談場所は、当会の施設（道灌山会館、江古田斎場、ホール多摩、  
大泉葬祭相談センター、目黒葬祭相談センター）はもちろんのこと、  
ご指定の日時に、ご指定の場所までお伺いたします。



一口に葬儀の事前相談といっても、「父が入院して  
いて危篤である。もし亡くなった場合の対応方法、葬  
儀費用等を具体的に知りたい。」「葬儀をするのは当  
分先だけ、いざという時のために葬儀の知識を身  
につけておきたい。」等、内容は様々だと思えますが、  
どんな相談でも承ります。

事前相談の内容はご理解を得た上で当会のデー  
タベースに記録させていただきますので、実際の葬  
儀の際は、事前相談をした内容を基にお葬儀を施行  
させていただきます。

ただし、葬儀はいつ行うことになるのか分かりませ  
ん、事前相談で予定していた式場が使用できなかった、  
事前相談で想定していた会葬者数より大幅に増  
えた、事前相談をした方の希望と喪主様の希望が異  
なった等、様々な変更点が生じることもございます。

ですから、私どもでは必ず実際に葬儀をする前に  
詳細な打ち合わせをさせていただきます、事前相談のご

希望とは異なるところは修正させていただいており  
ます。

なお、当会では、事前に葬儀費用の一部又は全額  
をお預かりする「葬儀予約契約」も承っております。  
事前にお見積りを立て、見込まれる費用の一部又は  
全額をお預かりし、実際に葬儀を行う際は、預かり金  
の中から支出し、葬儀費用が不足した場合は施主様  
に不足額をお支払いいただき、余った場合は法定相  
続人に返金いたします（法定相続人への返金が困難  
な場合は、供養料としてお納めいただくこともできま  
す）。この「葬儀予約契約」については、地域の社会福  
祉協議会の権利擁護センターの職員の方、成年後見  
人の方からのご相談をいただき、身寄りのない高齢  
者の方にご利用いただくことが多くなっておりま  
すが、一般の方々も是非この制度をご活用ください。

とかく葬儀費用が不明朗といわれておりますが、  
当会では常に明朗会計を心がけております。

## 平成22年度 決算報告

社会福祉法人 東京福祉会の平成22年度決算（概要）は、下表の通りです。  
なお、平成22年度は、「ホール多摩」の隣接地1,059㎡を駐車場用地として購入いたしました。

### 1. 貸借対照表

平成23年3月31日現在

勘定科目	金額（千円）
資産の部	
流動資産	1,506,039
固定資産基本財産	6,561,850
他の固定資産	3,153,687
<b>資産合計</b>	<b>11,221,576</b>
負債の部	
流動負債	406,795
固定負債	1,307,574
<b>負債合計</b>	<b>1,714,369</b>
純資産の部	
基本金	77,214
国庫補助金等特別積立金	2,805,792
その他の積立金	351,065
次期繰越活動収支差額	6,273,137
（うち当期活動収支差額）	354,824
<b>純資産合計</b>	<b>9,507,208</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>11,221,576</b>

### 2. 資金収支計算書

自平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

勘定科目	金額（千円）
経常活動による収支	
経常活動収入 計 ①	3,994,345
経常活動支出 計 ②	3,440,144
経常活動資金収支差額 ③=①-②	554,201
施設整備等による収支	
施設整備等収入 計 ④	93,292
施設整備等支出 計 ⑤	192,016
施設整備等資金収支差額 ⑥=④-⑤	△ 98,724
財務活動等による収支	
財務活動等収入 計 ⑦	489,732
財務活動等支出 計 ⑧	695,287
財務活動等資金収支差額 ⑨=⑦-⑧	△ 205,555
当期資金収支差額 合計 ⑩=③+⑥+⑨	249,921
前期末支払資金残高 ⑪	919,889
当期末支払資金残高 ⑫=⑩+⑪	1,169,810

### 3. 事業活動収支計算書

自平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

勘定科目	金額（千円）
事業活動収支の部	
事業活動収入 計 ①	4,050,334
事業活動支出 計 ②	3,786,882
事業活動収支差額 ③=①-②	263,452
事業活動外収支の部	
事業活動外収入 計 ④	22,951
事業活動外支出 計 ⑤	18,103
事業活動外収支差額 ⑥=④-⑤	4,847
経常収支差額 ⑦=③+⑥	268,300
特別収支の部	
特別収入 計 ⑧	532,336
特別支出 計 ⑨	445,812
特別収支差額 ⑩=⑧-⑨	86,524
<b>当期活動収支差額 合計 ⑪=⑦+⑩</b>	<b>354,824</b>
前期繰越活動収支差額 ⑫	5,854,778
当期末繰越活動収支差額 ⑬=⑪+⑫	6,209,601
基本金取崩額 ⑭	0
基本金組入額 ⑮	0
その他の積立金取崩額 ⑯	88,653
その他の積立金積立額 ⑰	25,117
<b>次期繰越活動収支差額 ⑱=⑬+⑭-⑯+⑰-⑱</b>	<b>6,273,137</b>

# お客様からのご意見・ご要望 (アンケート)

東京福社会では、ご利用いただいたお客様から、率直なご意見・ご感想をいただくため、アンケートへのご協力をお願いしております。平成22年度の集計結果は次の通りです。

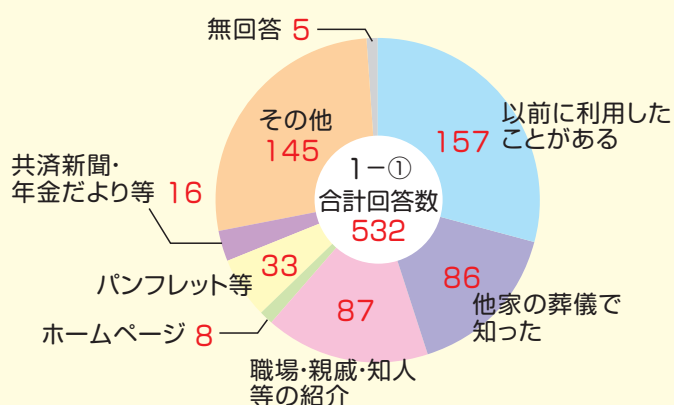
今後ともいただきました貴重なご意見等を十分に踏まえ、より質の高いサービスの提供に、努めてまいります。



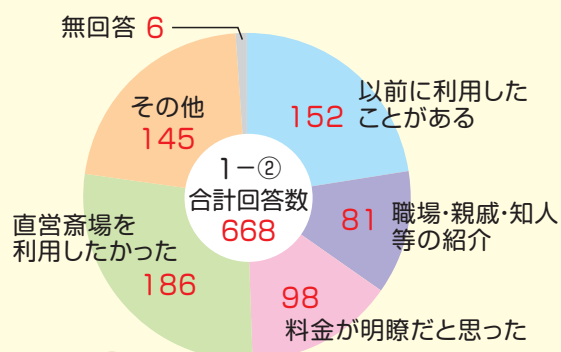
**アンケートの概要** ◆実施期間:平成22年4月1日～平成23年3月31日  
◆発送数:1,375通 返信数:481通

## 1 葬儀依頼の経緯についてお伺いします

①東京福社会をどのようにして知りましたか (複数回答可)



②今回、東京福社会に葬儀を依頼した理由について教えてください (複数回答可)



## 2 電話の対応についてお伺いします

	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①態度、言葉づかい	332	123	21	0	0	5
②質問等に対する説明	335	119	20	1	0	6
③話をよく聞いてくれた	342	111	19	1	0	8



## 3 担当職員についてお伺いします

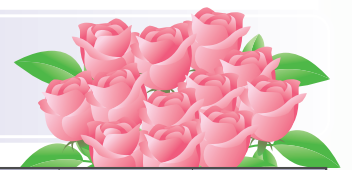
	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①身だしなみ(服装・清潔感)	377	86	14	1	0	3
②誠実さ、態度、言葉づかい	385	83	11	0	0	2
③安心して任せることができた	387	78	12	1	1	2

## 4 葬儀の打合せについてお伺いします



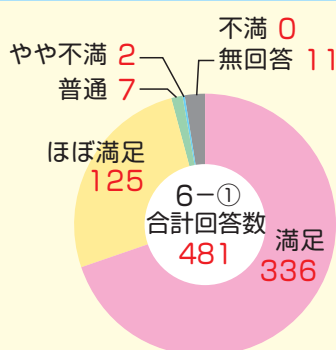
	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①誠実さ、態度、言葉づかい	363	91	12	1	0	14
②料金や内容等についての説明	325	112	27	2	0	15
③疑問や質問に対しての説明	336	107	21	2	1	14
④葬儀に関する全体的な説明	334	110	18	2	1	16
⑤ご喪家の意向をよく聞いてくれた	325	91	7	0	1	57

## 5 通夜・葬儀等についてお伺いします

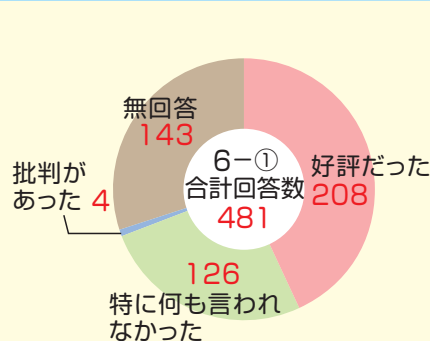


	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①式場の設備や使いかた	299	141	20	3	0	18
②祭壇・オプション品等	317	136	13	0	0	15
③式の全体的な進行	321	128	16	1	2	13
④職員の態度、言葉づかい	357	99	11	0	0	14
⑤司会	331	102	18	1	1	28
⑥当会の火葬場案内職員の身だしなみ、態度、言葉づかい	311	120	29	1	0	20
⑦当会の火葬場案内職員の対応	296	128	36	3	0	18
⑧通夜・精進落としの料理の味	208	160	81	7	0	25
⑨通夜・精進落としの料理の内容	198	166	81	9	0	27
⑩通夜・精進落としの料理の価格	174	156	106	15	1	29

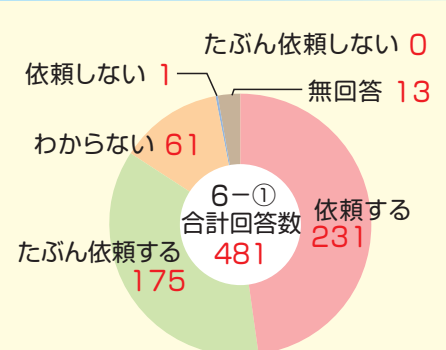
## 6 今回の葬儀全体についてお伺いします



①今回、葬儀を東京福祉会に依頼したことについて



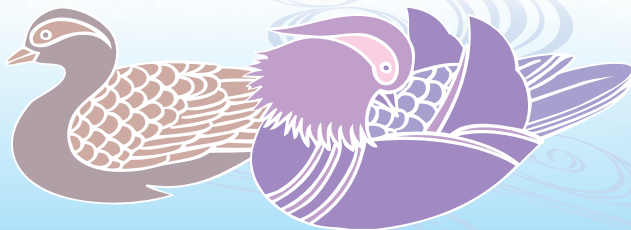
②会葬者のご感想



③将来、もし葬儀をすることになったら、また東京福祉会に依頼しますか

# 喪失体験から立ち直るまで

(匿名希望)



私の妻は平成19年の4月に大腸がんの宣告を受け、1年間の闘病生活で6回にわたる入退院を繰り返し、その間2回の大手術を受けましたが、平成20年桜が散り始めた4月16日に61歳で永眠いたしました。

人の誕生には、それほど大きな差はないと思いますが、死には個々人で大きな差があり、その間の人生が死に投影されていて、妻が亡くなった直後の喪失感は私がこれまで経験したことのない、また想像をはるかに超えるものでした。

妻は、9人兄弟の末っ子として生まれ、少々甘ったれというか、寂しがり屋な面もありましたが、兄弟の中では性格的に一番明るく、結婚式や法事などの催しがあると一人で仕切っていました。普段の生活では、一歩外に出ると持ち前の明るさと、物怖じしない性格で、常に輪の中心で動いており、交際範囲も広く、社交ダンス、ジャズダンス、卓球など多趣味でした。平日は殆ど家に居らず遊びに明け暮れる毎日でしたが、休日は家族との生活を大切にすることを心掛けていたようで、年に1・2度はふたりで1~2泊の国内旅行を楽しんでいました。

平成19年12月中旬、2回目の手術後に姪の結婚式があり、家族4人(娘2人)で出席しましたが妻は体調も良く、出された料理も私達と同じように食べ、式場内をいつもの調子で歩き回り、順調に回復しているように思っていました。ところが、年が明けると抗がん剤の副作用での貧血、腸閉塞の発症、膀胱からの出血が続き入退院を繰り返し、最後は左肺に水が溜まり、痛み止めの座薬も効果なく、モルヒネで痛みを和らげるようになりました。日頃から「男を残して先には絶対に逝きません」が口癖だったのに個室に移った2日目の朝、誰にも看取られることなく、安らかな表情で妻の寿命は尽きてしまいました。

妻が私の人生から突然姿を消し、もう話かけられなくなる日がくることなど、ほんの少し前まで想像すらしていませんでした。いつも機嫌が良く、話好きだった妻。ときに笑い、ときに真剣に議論し、一緒にいて退屈したことがありませんでした。

幸い我が家は、娘2人が同居していることから炊事・洗濯などの家事には困らず、一人住まいの孤独感からは逃れられました。

しかし、仏壇の前に座り妻の写真に今日の出来事の報告をするのですが、いくら話しかけても答えは返ってこない。妻はもういないのだ。この事実が耐え難かった。

そんな時、東京福祉会から「わの会」の案内をいただき、出席を試みることにしました。

カウンセラーの三橋尚伸(みつはし しょうしん)先生の「喪失体験がもたらすもの」と題して、今まであまり縁のなかった葬儀に関する知識を分かりやすく講義していただき、喪失を認識することから第一歩が始まり、現実から目を背けない生き方のために、自分の生き方の傾向と問題に目を向けることの大切さを教えていただきました。特に「人にはそれぞれ運命があり逆らえないもので、奥様のことは無理に忘れようとせず、自然に過ごすことが大切ですよ」とのお言葉で気持ちが楽になりました。そして、第1の目標であったお墓を建て一周忌に納骨を済ませると、僅かではありますが立直りの兆しが見え始めました。

その頃から日々の生活を見直し、食生活・運動・健康管理などをひとつずつ改善し、三橋先生からアドバイスをいただいた半袈裟を下げ、数珠を手にして「般若心経」を唱えると、それが心にいちばんぴったりとくるようになり、自分が回復し、再生に向っていることが実感できるようになりました。

しかしながら、それでも妻の洋服や靴を片付けられずにいて、手を触れると涙がとまらなくなる……。

……私も未だ道の途中です。

このご寄稿は、「わの会」を卒業された方の体験文です。大切な方を亡くされた喪失感から立ち直る一助となることを願い、ご協力いただき掲載したものです。東京福祉会では、これを機に多くの皆様のご寄稿をお待ちいたしております。

## <編集後記>

### 読者の皆様へ(作品募集)

皆様には「福祉会だより(響)」を毎月ご愛読いただき、有難うございます。私共編集部といたしましては、小紙が可能な限り読者の皆様方の交流の場となるような紙面構成を考えてまいりたいと腐心いたしております。

つきましては、皆様方の俳句、短歌、詩等韻文をお寄せいただき、それを掲載し読者の皆様の絆を結ぶ契機と交流の場を広げたいと願っております。多くの皆様のご応募をお待ちしております。

■ 葬儀に関する詳しい資料(施設案内、料金表(仏式、神式、キリスト式、花祭壇など))をご用意しております。お気軽にご請求ください。



- ① 仏式のご案内 ② 花祭壇のご案内 ③ 道灌山会館のご案内  
④ 江古田斎場のご案内 ⑤ ホール多摩のご案内 ⑥ 会友制度のご案内 ⑦ 葬祭のしおり

■ 資料のご請求はこちらまで

〈電話〉 **03-3823-8026**  
東京福祉会 渉外部

〈E-mail〉 [info@fukushikai.com](mailto:info@fukushikai.com)

東京福祉会  検索   
<http://www.fukushikai.com>